

事業報告

講座名	未来につなぐSDGs講座『防災はフェーズフリーの時代へ！「いつも」のあなたが、「もしも」のあなた』		
日時	令和6年6月1日（土）13：00～15：30		
場所	山口県セミナーパーク研修室 101	参加者数	29 人（うち子ども 5 人）

1 概要

様々な視点から災害や防災について学習することで防災意識を高めるとともに、日常生活の延長で防災対策につなげる「フェーズフリー」の取組を学ぶことを目的として実施した。

〔講師 一般社団法人レベルフリー 代表 坂本 京子 氏〕

（１）講義

親子参加5組（小4～中2）を含む、9歳から80代までの幅広い層が参加したが、講師のはきはきした対応と、クイズや100円ショップで買える防災グッズの紹介を取り入れた内容により、大人も子どもも理解しやすく、楽しい講義となった。

一番大切なことは災害が発生した瞬間に自分の命を守ることであり、そのために「防災を日常化する＝フェーズフリー」という意識を持ちましょう、との講師の言葉に参加者は共感し、頷いていた。

また、今年1月の能登地震で活躍した災害用トイレトレーラーの活用状況、水を入れてシャワーに使える撥水ふろしき、講師が日頃使っている「玄関に置く小物入れ（実は簡易トイレ）等、具体的な例が紹介された。

これらのお話により、参加者は「フェーズフリー」のイメージがつかめ、理解も深まったと思う。

（２）グループワーク

世代に偏りがないようにグループ分けし、フェーズフリーな暮らしのアイデアを大人も子どもも出し合った。また、付せんに書いたアイデアはホワイトボードに貼り、全員で共有した。

<写真>



みんなでかたろう！

ミライの防災を取り入れたフェーズフリーなくらし （参加者のアイデア）

もの

- 1 電動自転車バッテリー
- 2 蓄電池 歩くだけで電気がたまる→電気をためる
- 3 乾電池がキーホルダーに入っている
- 4 柄が外せる傘(柄は杖になり、布部分はヘルメットになる)
- 5 折りたためるヘルメット
- 6 テント代わりの傘
- 7 別々のスペースがあるバッグ
- 8 数日着替えをしなくてすむ服類
- 9 ペットボトルに入った飲料水を購入して保管しておく
- 10 高温・低温耐用の食料・水(車内に常備できる)
- 11 一台十役のペン 1 ボールペン 2 ライト 3 缶開け 4 カッター
5 ラジオ 6 シャーペン 7 コンパス 8 輪ゴム
9 調味料が出せる 10 ライター
- 12 ペンの中にしまえるアルミホイール
- 13 水に浮く机(両サイドのおもりが外せる)

考え方・習慣

- 1 防災マップ+ポイント アプリ(日常の場所と災害避難)
- 2 防災公園をひろめる
- 3 実のなる木を植える
- 4 体育の時間の前に25秒間走をする
- 5 保存食を週一で給食に出して食べる
- 6 無駄なものをたくさん持たない暮らし
- 7 防災エッセンスを入れたAFPY
- 8 色々な道で同じ目的地に行く
- 9 雨水を受ける入れ物で屋外に放置して雨水をためている
- 10 空のペットボトルに雨水を入れておく
- 11 ソーラー電池を普段使いする
- 12 ソーラーランタンを普段使いする
- 13 トイレットペーパーはシングルを使う
- 14 新聞の広告で箱を作ってためている
- 15 ガソリンは半分以下にしない
- 16 1ヶ月に1回キャンプに行って食べて、買い足す
- 17 アナログ生活に慣れる キャンプを楽しむ中で
- 18 ご飯パックを定期的に食べる
- 19 焼き肉をする時に電気コンロは使用せず、携帯式コンロとガス缶で焼く
- 20 食品のローリングストック(夫のお弁当のスープを多めに購入など)